

当院で実施される下記の臨床研究はオプトアウトにより実施します。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、これらの研究にご自身の診療情報を使用してほしくない場合は各研究の担当者までお問合せください。

<p>研究課題 (承認番号 2020006)</p>	<p>慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) のカテーテル的バルーン肺動脈形成術 (BPA) 治療による新たな治療目標の検討</p>
<p>担当科及び研究責任者</p>	<p>循環器内科 藤井 真也</p>
<p>利用目的</p>	<p>慢性血栓塞栓性肺高血圧 (CTEPH) に対するカテーテル的バルーン肺動脈形成術 (BPA) の長期安全性・有効性は確立しつつあり、日本循環器学会ガイドラインでも肺動脈内膜摘除術の適応のない患者に対してクラス I となっており、この病気の予後改善は確立されてきました。しかし、運動機能をどこまで改善させられるかは証明されておりません。また、CTEPH 患者さんは高価な肺血管治療薬や在宅酸素療法を導入されていることがほとんどであり、BPA により肺高血圧症が改善していても、肺血管治療薬や在宅酸素療法を離脱できない患者さんが多数存在しています。このような患者さんに対して、より良い状態に改善させるために、肺高血圧症を脱してからの追加バルーン肺動脈形成術の治療効果を科学的なデータとして分析し、到達できる治療レベルを検討します。</p>
<p>研究の対象者及び対象期間</p>	<p>CTEPH 患者 約 50 例 (2014 年 7 月～2025 年 3 月 31 日までに当院で BPA を施行された CTEPH 患者様)</p>
<p>研究の方法</p>	<p>すでに BPA 治療を終了した患者様のデータを使用します。CTEPH 患者において、肺高血圧を改善したのちの、残存病変に対して BPA が、血行動態や酸素化や運動機能がどれだけ寄与していたか、後ろ向きに評価します。 保険診療上、得られたデータを用いて評価します (右心カテーテル検査データ、血液ガス分析、6 分間歩行検査など)</p>
<p>問合せ先</p>	<p>+81-048-536-9900 内線 5064 循環器内科 藤井 真也 (ふじい しんや)</p>